

# ヒッポファミリークラブ講座

～人とことばに心を開けば  
新しい世界が見えてくる～

## 当日のプログラム

- ◆ ヒッポファミリークラブの活動紹介
- ◆ 講師のお話を聞こう
- ◆ メンバーの体験談を聞こう

## 参加者の声

伝えたい、わかり合いたいという気持ちが大切。多言語を習得すると違う世界が見えると思いました。

(30代主婦・1歳)

いろいろな国の人に会い、次々と現れてくる壁に立ち向かっていく姿が、かっこよかったです。(中学生)

多言語で育ったことで、ことばがうまく通じない環境でも、何とか伝えようという気持ちを持って、自分の知っている言語を駆使してコミュニケーションをとることができると思いました。やっぱり伝えたいという気持ちを持つことが大切だと思いました。(社会人)

Привет

أ - السَّلَامُ عَلَيْكُمْ

HELLO!

你好

## どんな人にも壁をつくらない コミュニケーション力を手に入れよう

Guten Tag

안녕하십니까

नमस्ते

## 言語交流研究所 ヒッポファミリークラブとは

国や人種の違いを超えて、どんなことばを話す人ともコミュニケーションできるようになれば…。そんな思いから、多言語(たくさんのことば)を自然に獲得していく活動としてヒッポファミリークラブが誕生しました。本来人間は「誰も」が「どんなことばでも」「いくつでも」話せるようになる自然の力を持っています。

[ホームページはこちら](#)

ヒッポでは、多言語環境の中で育った赤ちゃんが母語を獲得するのと同じプロセスで、家族や仲間と一緒に、楽しく多言語を身につけています。また各国とのホームステイ交流もさかんに行っています。



## リビングから新しい 世界が見えてくる!



英語が苦手だった私。思い切って上の子が3歳の時、ヒッポの交流プログラムで、初めてインドネシアの青年を受け入れました。会ってすぐから子どもたちと遊んでくれて、楽しそうにしている姿を見て、自分の中にあつた外国の人という壁が解けました。子どもたちが「スイラマツ パギー！」と挨拶をすると、喜んで「スイラマツ パギー」と返してくれたり、家族でゲストと楽しんできました。それからは、機会があると受け入れをしてきました。今では、テレビでアメリカや中国などの外国のニュースが流れると、子どもは地図を見て、「ここだね」と話したり、「どうなるんだろう?」と考えたり、外国を日本と同じように身近に感じてくれていることに嬉しく思います。

(一宮市 年長・年少の母)

## 新しい取り組み

- ◆ 名大留学生と手紙で交流
- ◆ オンラインによる海外交流(家族交流・青少年交流)
- ◆ 交換留学生(ロシア・ベルギー)のホームステイ受け入れ

世界の人とつながり  
続けています



## 英語以外の言語も学ぶ意義

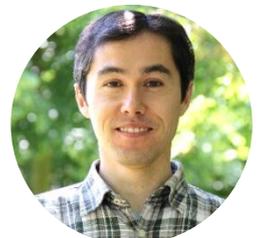
### 「多様性を楽しむ姿勢

### ダイバーシティマインド」

### をヒッポの多言語環境で

## 木村護郎クリストフ教授

(上智大学/外国語学部ドイツ語学科)



国内でも国外でも、多様な言語的・文化的背景をもつ人々と偏見なくつきあっていくことがこれから必須の前提となります。そして相手を知る一つのカギが言語です。しかし、こう言うと、必ず、「英語さえできないのに多言語なんてムリ」という反応がかえってきます。しかし、これは的外れです。「多言語を避けているから英語さえできない」のです。むしろ小さい頃から多言語に接していると、多様性に関われた心がはぐくまれ、異言語を学ぶことにおじけづかなくなります。そして何よりも、言語の多様性に慣れることでさらなる言語が覚えやすくなるのです。